

数 学

【数学Ⅰ・A】出題形式は必答2題、選択2題の計4題で試行調査通りの形式。昨年のセンター試験より試験時間は10分増え、ページ数は8%増加。標準的なセンター試験と比べて同水準の難易度。生徒の対話を手掛かりにする形

式や、正しい記述を選択する新しい出題形式が随所に見られた。また100%走のタイムを2次関数を用いて考察する問題が出題された。題材となる事象を高校数学の知識と結び付けられるかが鍵。データの分析は例年通り分量は多いものの数値計算がなく、資料の読み取りが中心。選択問題の数学Aはいずれも計算量が多く、思考力が求められる。

【数学Ⅱ・B】出題形式は必答2題と選択2題の計4題。標準的なセンター試験と比べて易化。試行調査で出題された実用的な数学の活用をテーマとした問題は見られず、従来のセンター試験に似た出題内容であった。第1問の三角関数では合成を使った最大最小問題が問われ、指数関数では会話形式での出題があった。第2問の微分法積分法は全体的に解きやすく、グラフの選択が問われた。第3問の確率分布は標本調査に関する内容であり、計算よりも正誤判定が多く出題された。第4問の数列、第5問のベクトルは、いずれも問題文の誘導に乗ると解きやすい。